

「古文Ⅲ（文法編）」の特長と使い方

●本書のねらい

このテキストは、高等学校で学習する重要古語・文語文法・古典の常識などの古文読解に必要な知識をまとめ、大学入試に臨むにあたっての知識の整理ができるように編集されています。

古文の学習にかなりの時間を割いているのに、なかなか得点アップに結びつかないという人は、一度、古語と文法の総まとめをしてみたらいかがですか。入試問題では知識事項が問われることも多く、また、古文の知識に自信がつくことで、文章の読解力も向上し、大学入試の準備としても非常に有効だと思われれます。このテキストは、古文の知識のうち、大学入試のポイントとなる事項を精選し、効率よく学習できるように工夫されています。

●本書の特色

○このテキストは、「テーマ別のまとめと演習」と「総合演習」で構成されています。

○「テーマ別のまとめと演習」は、テーマごとに見開きの二ページで区切りがつくようにまとめられているので、学習計画がたて易くなっています。

○大学入試問題を解くうえで、多くの人がつまづく事柄に重点を置いた単元構成になっています。

○例文や問題文は入試でよく扱われる作品から引用し、出典を明示しています。

●本書の構成と使い方

○テーマ別のまとめと演習（P4～43）

重要古語、文語文法、古典の常識を項目別にとりあげ、重要事項をおさえて、問題演習で確認します。

〈ポイント〉……重要事項のまとめです。最低限、ここにあげてあることは覚えておく必要があります。また、ここにあげてあることをもとに、辞書、文法書などで知識の幅を広げることも大切です。

練習問題

……各ポイントのあとにある練習問題で、知識を確認します。

○総合演習(1)～(5)（P44～64）

いくつかの項目にまたがる総合問題で知識の総まとめをするとともに、実戦的な力を養います。

《解答・解説》（別冊）……解答例とともに、詳しい「解説」と「口語訳」がついています。

目次

◆	1	重要古語(1)——古今異義語・対義語・多義語……………	4
◆	2	重要古語(2)——同音異義語・混同しやすい語・慣用語……………	6
◆	3	体言——名詞・代名詞の種類……………	8
◆	4	副詞・連体詞・接続詞・感動詞……………	10
◆	5	用言(1)——動詞の活用と活用の種類……………	12
◆	6	用言(2)——動詞の種類と用法……………	14
◆	7	用言(3)——形容詞の活用と用法……………	16
◆	8	用言(4)——形容動詞の活用と用法……………	18
◆	9	助動詞(1)——「つ・ぬ・たり・り・き・けり」の意味と活用……………	20
◆	10	助動詞(2)——「む・むず・べし・じ・まじ」の意味と活用……………	22
◆	11	助動詞(3)——「けむ・らむ・らし・めり・まし・なり」の意味と活用……………	24
◆	12	助動詞(4)——「る・らる・す・さす・しむ」の意味と活用……………	26
◆	13	助動詞(5)——「なり・たり・ず・まほし・たし・ごとし」の意味と活用……………	28
◆	14	助詞(1)——格助詞・接続助詞のはたらき……………	30
◆	15	助詞(2)——副助詞・係助詞のはたらき……………	32
◆	16	助詞(3)——終助詞・間投助詞のはたらき、助詞の総合演習……………	34
◆	17	敬語(1)——尊敬語・謙讓語・丁寧語……………	36
◆	18	敬語(2)——注意すべき敬語表現、敬語の総合演習……………	38
◆	19	古典の常識——季節・行事・官職・装束など……………	40
◆	20	いろいろな表現——倒置・挿入・省略・引用……………	42
◆		総合演習(1)——重要古語・体言・連体詞・副詞・接続詞……………	44
◆		総合演習(2)——用言……………	48
◆		総合演習(3)——助動詞……………	52
◆		総合演習(4)——助詞……………	56
◆		総合演習(5)——敬語・古典の常識・いろいろな表現……………	60

重要古語(1) — 古今異義語・対義語・多義語

- 現代語と形は同じようだが意味の異なる古語は、現代語の意味が頭にあるので早合点し、誤った解釈をしてしまいがちなので注意する。
- 反対またはそれに近い意味の語は対にして覚えるのがよい。
- 一つの語で異なる意味を多くもつ古語がある。これは使われている場面・状況に応じた意味を見分ける必要がある。

ポイント1

◎ 古今異義語に注意しよう。

ありがたし——めつたにない・できそうもない・もつたにない
 いたづらなり——役に立たない・むなし・何も無い
 いまいまし——縁起が悪い・不吉だ・憎たらしい・残念だ
 うつくし——かわいい・愛らしい・見事だ・きれいだ
 おどろく——はつと気づく・目を覚ます・目を丸くする
 さうざうし——物足りない・心寂しい
 勉強していて、おやつと思つた古語は、カードに集めて覚えるようにしたい。

— 次の — 線部の古語の意味を答えよ。

- (1) 若くして失せにし、いとほしくあたらしくなむ。 (増鏡)
- (2) 翁をいとほしく、かなしとおぼしつることも失せぬ。 (竹取物語)
- (3) たれをまつ虫こら鳴くらむ (古今集)
- (4) あてやかに心にくき人にはあらじ。 (源氏物語)
- (5) 二年ばかり旧る宮にながめ給ひて、 (源氏物語)

- (6) 下簾のはざまの開きたるより、この男まもれば、 (大和物語)
- (1) () (2) ()
- (3) () (4) ()
- (5) () (6) ()

ポイント2

◎ 対にして覚えるとうい語

いも——男性から女性を親しみをこめて呼ぶ語。妻・恋人。
 せ——女性から男性を親しみをこめて呼ぶ語。夫・恋人。
 うつつ——現実・目の覚めている状態。意識の確かな状態。
 ゆめ——夢・夢のようにはかないこと。
 かたほ——不完全なこと・不十分である・未熟だ。
 まほ——完全であること・十分である・直接・じか。
 ひなぶ——田舎じみている・田舎めく・下品だ。
 みやぶ——上品だ・優雅だ・みやびやかである。
 まうづ——参上する・うかがう・参詣する。
 まかづ——退出する・さがる。
 よろし——好ましい・適当である・悪くはない。
 わろし——感心しない・よくない・見劣りがする。
 他にもへあるじ・まらうとへいぎたなし・いざとしへおこす・やるへ今めかし・古めかしへみいる・みやるへまかる・まるるへなど、対にして覚えるとうい語はある。調べよう。

2 次の各文の()に適する古語(適当に活用させる)はア・イどちらか、符号で答えよ。

- (1) ① () () 男ども二十人ばかりつかはして、
 ② かりそめに言ひちらされし() () たはぶれごとも、
 ア あだなり イ まめなり (①竹取物語・②柴門の辞)
- (2) ① いとはかなうものし給ふこそ() () 。
 ② まめやかにものし給ふ君なれば、() () 思し譲れり。
 ア うしろやすし イ うしろめたし (①・②とも源氏物語)
- (3) ① はしたなき交らひの() ()、身を思ひ悩みて、
 ② 滝口なれば、弓弦いと() () うち鳴らして、
 ア つきづきし イ つきなし (①・②とも源氏物語)
- (4) ① 心ばせある少将の尼、() () 人、童ばかりぞ、
 ② 主上は今年三歳、まだ() () ましませければ、
 ア おとなし イ いとけなし (①源氏物語・②平家物語)
- (5) ① たびたび行きけれども、いと() () もてなして、
 ② 髪ゆるるかにいと長く、() () 人なり。
 ア めやすし イ はしたなし (①十訓抄・②源氏物語)

ポイント3

◎多義語は、そのもつ意味のどれを訳にあてはめるかを判断することが必要である。

- あはれなり——①しみじみとした情趣がある。②心が引かれておもしろい。美しい。③やさしく優美だ。④かわい。いとしい。⑤気の毒だ。ふびんだ。⑥感慨無量だ。⑦愛情が深い。やさしい。⑧りっぱだ。感心だ。
- みる——①見る。目にとめる。②会う。③遭遇する。④結婚する。

る。妻とする。⑤世話をする。⑥処理する。取り扱う。⑦ころみる。⑧見て判断する。⑨理解する。悟る。
 こうした多義語は、語源的な意味と語感を知って、その場面にしみる感じの語であり、「みる」は目をはたらかせて物事を見て認める語である。

3 次の——線部の意味はどれか、あとの符号で答えよ。

- (1) ① かかることは 文にも見えず、伝へたる教へにもなし。
 ② 京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。
 ③ (梨の花を) もろこしには限りなき物にて、文にも作る。
 ④ ありたきことは、まことしき文の道、
 ア 手紙 イ 漢詩文 ウ 学問、特に漢学 エ 書物
 ① () ② () ③ () ④ ()
- (2) ① けづることをうるさがり給へど、をかしの御髪や。
 ② 裾をかしうからけて、路の枝折りとうかれたつ。
 ③ (蛍が) ほのかにうち光りて行くもをかし。
 ④ (猫は) いみじうをかしければ、かしづかせ給ふ。
 ア 風情がある イ こっけいだ ウ 美しい エ かわいい
 ① () ② () ③ () ④ ()
- (3) ① さるべきたよりたづねて、七月七日言ひやる。
 ② たよりごとに、物も絶えず得させたり。
 ③ 庭の草木も心あるさまに、簀子・透垣のたよりをかしく、
 ア 機会・ついで イ 具合・配置 ウ 縁故・てづる
 ① () ② () ③ ()

高校ゼミ

古文Ⅱ

(文法編)

解答編

CKT

① 重要古語(1) — 古今異義語・対義語・多義語

P 4 ~ 5

- 1 (1) おしい・残念である (2) いとおしい (3) たくさん・数多く
 (4) 奥ゆかしい (5) 物思いにふける (6) じつと見つめる・見守る
- 2 (1) ① イ ② ア (2) ① イ ② ア (3) ① イ ② ア
 (4) ① ア ② イ (5) ① イ ② ア
- 3 (1) ① エ ② ア ③ イ ④ ウ (2) ① ウ ② イ ③ ア
 ④ エ (3) ① ウ ② ア ③ イ
- 〔解説〕 1は古今異義語である。「あさまし・あそぶ・あやし・いそぐ・さながら・すさまじ・なまめかし・むつかし・やさし・ゆかし」など注意しよう。 2は対義語である。対にして覚えよう。 3は多義語。それぞれの文により適する意味を選び分けなければいけない。
- 【現代語訳】 1 (1) 若くして死んでしまったことは、気の毒であるし残念なことである。 (2) 翁を気の毒だ、いとおしいと思っていた気持ちもなくなってしまった。 (3) だれを待つ松虫がたくさん鳴いているのだろう。 (4) 上品で奥ゆかしい人ではないだろう。 (5) 二年ほど古い御殿で物思いに沈んでいらっしやって、 (6) (牛車)下簾したすだすの隙間の開いている所から、この男が(車の中を)じつと見つめると、
- 2 (1) ① 忠実な(家来の)男たちを二十人ほど派遣して、 ② ほんのちよつと言ひ(詠み)捨てられたつまらないと思うような即興的な歌でも、 (2) ① ほんとうに頼りなくいらっしやるのが気がかりです。 ② まじめでいらっしやるお方なので、安心だと思ひになつて(姫君を)おまかせしていた。 (3) ① 中途半端な宮仕えが似つかわしくなく、(将米の)わが身を思い悩んで、 ② 滝口の武士なので、弓弦をたいそうふさわしく鳴らして、 (4) ① 気のきく少将の尼と、年輩で分別のある女房、女童だけを、 ② 帝は今年三歳、まだ幼くいらっしやつたので、 (5) ① たびたび行つたけれども、たいそうぶあいそうに扱つて、 ② 髪はゆつたりととても長く、感じのよい人である。
- 3 (1) ① このようなことは書物にも見あたらないし、(昔の人の)伝えた教えにもない。(徒然草) ② 都に(いる)、あの人の御もとに(やる)

② 重要古語(2)

同音異義語・混同し
 やすい語・慣用語

P 6 ~ 7

- というわけで、手紙を書いて託した。(伊勢物語) ③ (梨の花を) 中国ではこのうえもない(すばらしい)ものとして、漢詩文にも(詠み)作る。(枕草子) ④ (人として身につけることが) 望ましいことは、本格的な学問の道、(徒然草) (2) ① 梳かくことをいやがりなさるけれども、美しいお髪ですよ。(源氏物語) ② (着物の)裾すそをこっけいなくつこうにはしよつて、道案内(を)しよつとうきうきしてでかける。(奥の細道) ③ (螢が)ほのかに光つて行くのも風情がある。(枕草子) ④ (猫は)たいそうかわいいので、大切に世話をおさせになる。(枕草子) (3) ① しかるべきでづるを見つけて、七月七日に言い贈る。(更級日記) ② ついでがあるたびに、贈り物もいつも取らせていた。(土佐日記) ③ 庭の草木も趣ある様子であつて、簀子と透垣との配置も趣があり、(徒然草)
- 1 (1) ① イ ② ア (2) ① イ ② ア (3) ① ア ② イ (4) ① イ ② ア (5) ① 振 ② 触 ③ 古・旧 ④ 震 (6) ① 駆 ② 掛・懸 ③ 搔 ④ 欠
- 2 (1) おもしろくない (2) 張り合いがない (3) さあどうだか(知らない) (4) さあ (5) なんともいえないりっぱな (6) どうしても避けることができない (7) 上品だ (8) 騒がしい
- 3 (1) ① 言葉でいい表せない (2) そのとおりである (3) 言うまでもない (4) そのままにしておくわけにもいかない (5) 適当である (6) 比べるものがない (7) 悪くすると
- 〔解説〕 1 同音異義語である。(1)~(4)は語の意味と文意を考えてあてはめる。(5)(6)は文意から漢字を求める。いずれも古語辞典で確かめよう。 2 は混同しやすいく古語、 3 は慣用語である。これも辞典で確かめておこう。
- 【現代語訳】 1 (1) ① おそれおおい(帝)お言葉をたびたび承りながら、 (2) (右大弁も)たいそう学問のある物知りであつて、 (3) ① 悲田院の堯蓮上人は……並ぶものがないくらいすぐれた武士である。 ② どうしてこれほどの宝物を、簡単に彫はらすことができないくらいに(桜の)花が散つてい